14,354人 6,940人 7,414人 6,913戸

でにぎわっていました。 た家族連れの方等、

浅間温泉第1町会

Y

涼祭が盛大に開催されました。

8月14日

(月) 大村町会納

トを企画して、お盆で帰省し

大勢の人

大

村 町

会納涼

祭

令和5年9月1日現在

南浅間

青

山

様

ぼんぼり

人 男 生 女 世 帯数

27 回 浅 間 温 泉夏祭り





落ち着きを見せる中、 の開催となりました。 月11日、 囚場で新型コロナウイルス禍の 第27回浅間温泉夏祭りが、 12 日 13日と浅間温泉 4年ぶり 8

盆踊りはやぐらを囲んで、

とともに子どもから大人まで、 麗な演奏、3日目は本郷若獅子 の皆さんの迫力ある演奏、 でいました。 信地区民謡舞踊赤堀社中の皆様 目は松本第一高校吹奏楽部の華 **太鼓の演奏もあり、** 大勢の人たちが盆踊りを楽しん その他、 1日目は中山太鼓連 会場からは 2 日

歓声が上がっていました。

(南浅間 T

地元住民による夜店の出店も

抽選会など様々なイベン



なってしまいました。 が集まらない事から、中止とのふれあい納涼祭の出席人数 今年もコロナの影響で町会

青山様、

ぼんぼん

は子ども達

が集まり、 なりの人数 配していま くれるか心 が集まって 開催されま ひと安心で したが、か

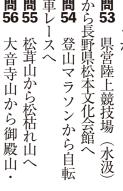


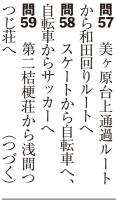
子太鼓」 和太鼓演 バンド「ダ の力強い のロック 本郷若獅 伝説

と盆踊り。来場者は生ビール 時を過ごしておりました。 片手に涼をとり、 クルのキレキレK-POPダン の華麗なハワイアンフラダン ラシナー ス、そして締めには花火大会 ス、「フラオハナロコマイカイ」 ズ」のライブ、 (大村中町会 信大ダンスサー 楽しいひと Т

これが分かれば 合併50周年記念

新シリーズの第3弾です。 なキーワードで探る「がペ検」 しょうか。 〈第2章この変化は変か?〉 記憶に残る言葉はおありで 合併後の50年間をさまざま







ている振りをしていたが時折、

フリーコラム

東 西

動の滝」に向かった。 大音寺山のふもとにある「不 か」と思い、浅間温泉街から どこか涼しい場所はないもの この夏も猛暑の日が続いた。

ができた。傍らに句碑が建つ。 想より細かったが、 瀑布かな」(花ノ本聴秋)。 んやりとしており、涼むこと 滝は薄暗い木立ちの中に この滝は不動明王を祭る不 「虹吐いて 夏よせつけぬ 流れ落ちる水流は予 周囲はひ

テレビで見た。皆、仕事をし の甲子園の決勝を職場の

と切なくなって無条件に応援 を重ねて思い出すのか、ちょっ かつての真っ直ぐだった自分 ボールを追う姿、これが良い。 た違い、未熟な彼らが懸命に ムランやヒットが放たれてい かないと気付き参戦した。 ので画面に目を向けるとホー て、これはもう一緒に見るし したくなる。 斉に「ウォー」と声がする 完成されたプロ野球とはま

はお互いに相手チームを誉め に勝利した。試合後の両監督 慶応が8対2で仙台育英 点差は少しずつ開

あります」と話した。厳寒の は「冬は滝が凍り、見応えが ている。不動堂を訪れた女性 工の滝で、近くの沢水を引い に公園整備の際に造られた人 動堂の直下にある。 大正6年

滝を想像し、汗をぬぐった。 (浅間温泉第4町会 Τ



ている。 手も同様に拍手で相手を称え 祝福の拍手を送り、 仙台育英高校の監督は何度も タビューを受けている最中も 称え尊敬している。 涙する選 優勝イン

を目指してやってくる。 び出してゆく選手たちは青春 き上げながらグラウンドに飛 主的に選手の積極性を引き出 ションを作る。その考えが自 学的根拠に基づいてコンディ の所が懸命に練習して、 らの優勝により、 の一コマのように美しい。彼 し勝利に繋がった。 え、トレーニングを組み、科 楽しむ野球。 自分たちで考 また丸坊主 前髪をか 勝 利

(浅間温泉第8町会 K

合併50周年記念特別企

冬の日の情景

をしたのを今でも鮮明に覚え ちで、薄い氷の部分に乗って 私は、玄向寺の横の田んぼに ぶぬれになって帰りました。 しまった私は、氷が割れてず 張られた氷の上で、スケート ています。 50年前の冬、 氷の厚さがまちま 小学生だった

数人が、幼かった私に大きな 歩けるかを競ったものでした。 ろりそろりと歩き、表面だけ ちは表面の凍った雪の上をそ の中で遊んだ記憶がよみがえ 「かまくら」を作ってくれ、そ が固い雪の上を踏み抜かずに 下宿していた信大の学生たち なると凍結しました。子供た われ、日中に溶けた雪が夜に 雪が降ると一面が雪化粧で覆 桑畑が広がり、 当時大村地区は、 また、雪の積もった日に、 2月頃には、 田んぼと

れます。 れている姿が今でも思い出さ しいのか、楽しそうに雪と戯 関東出身の学生には雪が珍

くなりました。 田んぼに氷が張ることも少な最近では雪もあまり降らず、 温暖化の影響でしょうか、

> んな記憶が懐かしく、 愉しい笑い声が聴こえる、そ 寒さ厳しい冬の情景の中に 50年の

ダンボ

迎え盆

大村中町会

Y

うにもかかわらず主役が子ど も達というのも、 り回すという行事が行われま の地区独特のもので、 す。「ダンボ」と言われるもの に持って行き、火をつけて振 けたものを集落の高いところ の日の夕方、藁の束に縄をつ に思います。 つの形のようです。 ですが、『迎え火』の風習の一 本郷 「ダンボ」という呼び名はこ 地 区南洞では、

見守る親御さんたちもみんな に楽しそうです。その様子を 組み方は様々ですが、 強く元気に振り回す子、 いた藁束を振り回す姿は本当 おっかなびっくりの子、 火のつ 取り 力

でしょう。 い思い出として心に残ること

(洞町会 S

2023 夏の公民館事業

間の事業を実施します。 2023年夏、 公民館を目指し、残りの半年 から大人まで、楽しく学べる 村青鬼地区視察研修など、 統的建造物群保存地区・白馬 親子ディスカバリー、 しが目白押しでした。子ども コロナも落ち着きつつある 公民館では、 重要伝



珍しいよう

火を扱

